

第4回 JP-MIRAI自治体・国際交流協会等勉強会 資料

【厚生労働省】地域外国人材受入れ・定着モデル事業

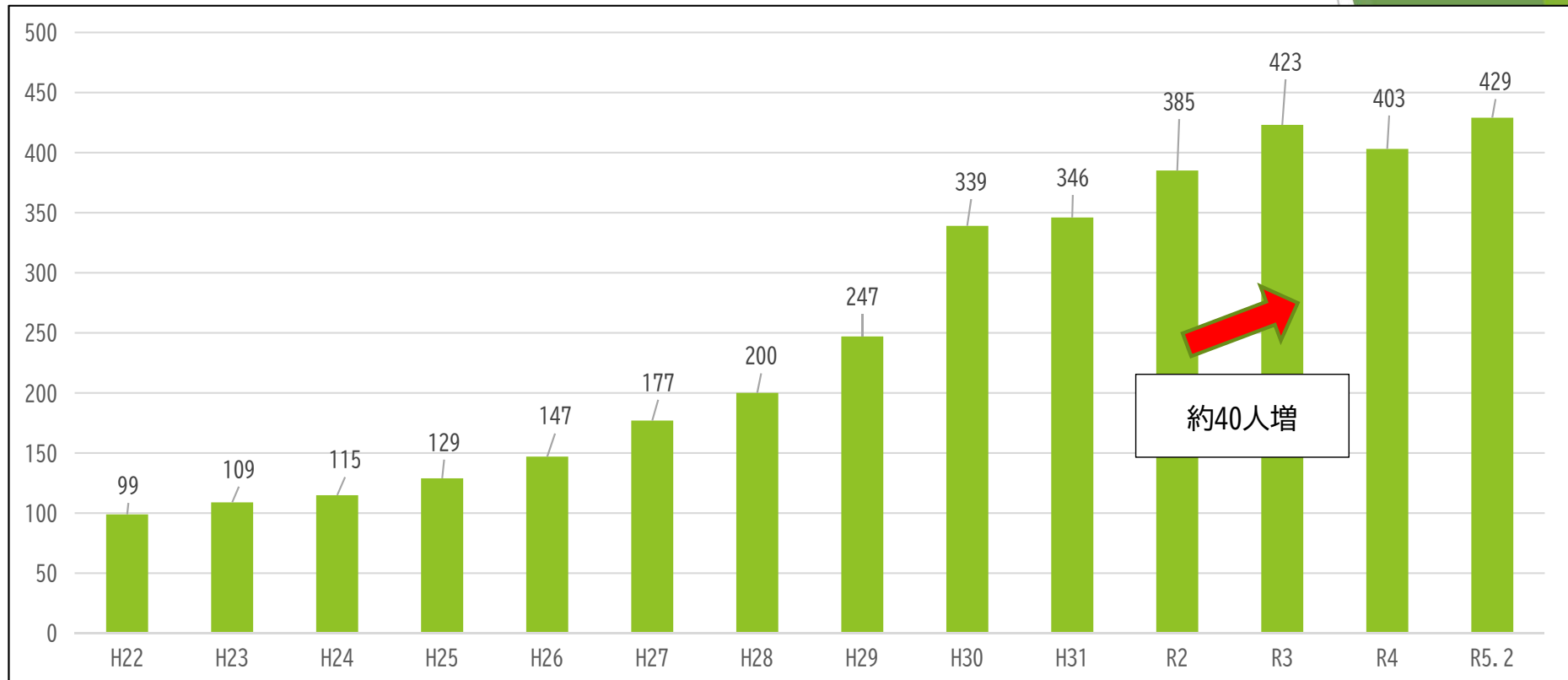
【事業関係者】

- ・熊田公民会（自治会）
- ・屋地馬場公民会（自治会）
- ・鹿児島県 商工労働水産部産業人材確保・移住促進課
外国人材政策推進室 外国人材政策推進係
- ・パーソルキャリア(株) 地域外国人材定着事業部
- ・さつま町企画政策課 企画政策係

令和5年4月24日（月曜日）
鹿児島県さつま町 企画政策課

在留外国人の推移

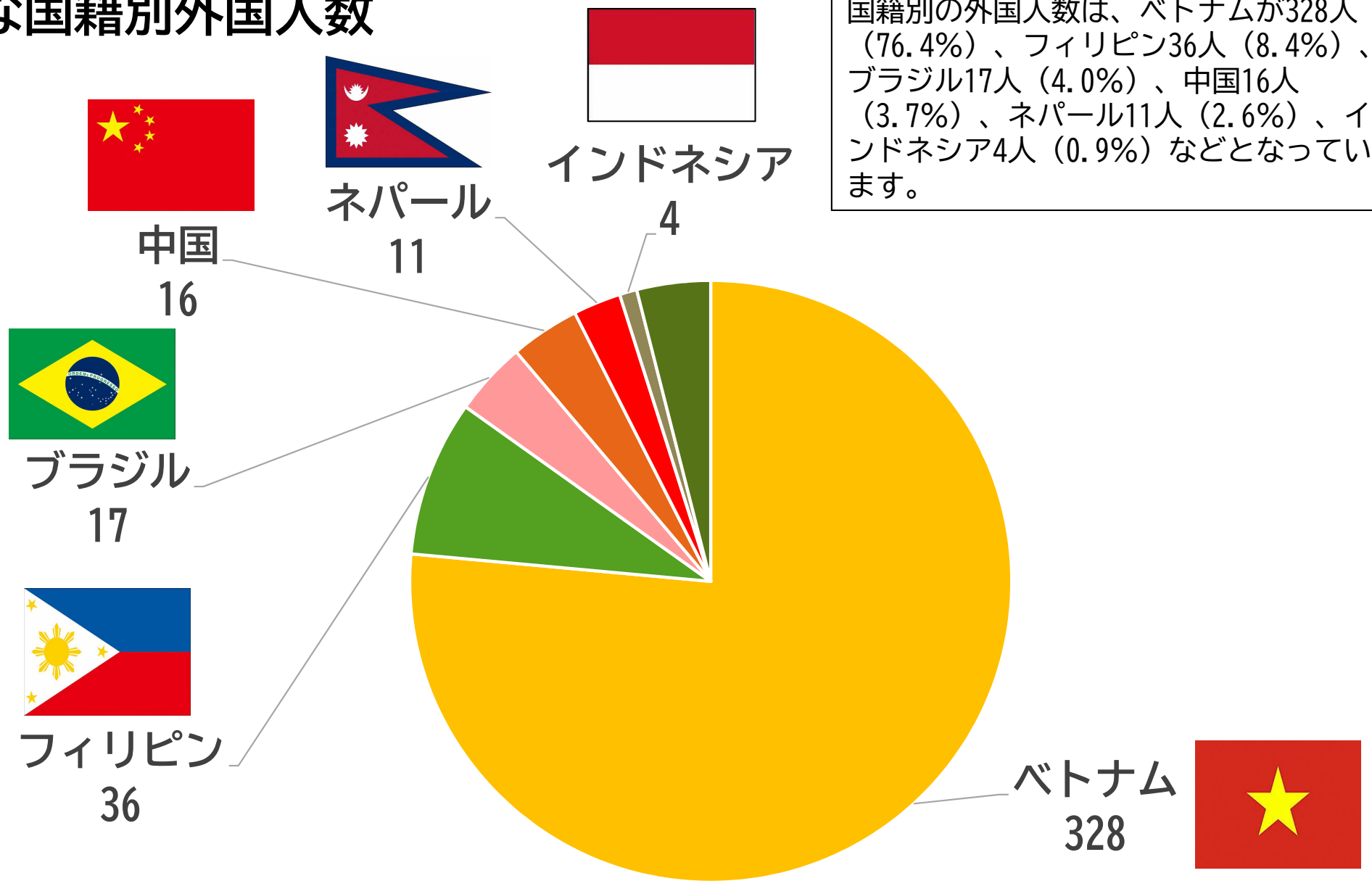
毎年度4月の推移



鹿児島県さつま町には、令和5年2月末現在で429人の外国人の方がお住まいです。
 さつま町の全人口19,434人に対する外国人の割合は2.2%であり、外国人が占める割合は鹿児島県内の自治体の中でも高くなっています。（2%を超える自治体は3自治体）
 その多くは、技能実習や特定技能となっており、約66%の割合を占めています。

10年前の平成25年では、129人の外国人の方がお住まいでしたが、現在は3倍以上の方がお住まいで令和2年12月末では464人と、これまでで一番多い数となっています。

主な国籍別外国人数



国籍別の外国人数は、ベトナムが328人（76.4%）、フィリピン36人（8.4%）、ブラジル17人（4.0%）、中国16人（3.7%）、ネパール11人（2.6%）、インドネシア4人（0.9%）などとなっています。

1. 外国人材の地域定着に向けたさつま町での取組内容

○さつま町では、地域外国人材受入れ・定着モデル事業の対象地区において、スムーズな事業開始につなげるため、鹿児島県・パーソルキャリア(株)と連携し、自治会と事業所の代表者に集まっていたいただき、**5者による顔合わせや事業概要の説明**を行いました。

- ・雇用主である事業者も、**地域での生活には自治会の協力が必要**との認識があり、積極的にかかわる意向を確認できました。
- ・自治会においては、住民の中には不安を感じている方もいるが、交流を行うことで不安を解消し、**外国人も一人の地域住民として交流していきたい**意向が確認できました。

厚生労働省事業 鹿児島県庁・パーソルキャリア(株)

モデル市町村 さつま町

自治会
(熊田公民会)

事業者

外国人

自治会
(屋地馬場公民会)

事業者

外国人

2. 自治会ごとの取組

取組方針

外国人材に公民会の構成員（住民）として、活動に参加。
その中で異文化交流や関係性構築を行う。

実施の目的

- ・ 外国人の居住エリア単位での外国人材と地域住民の相互理解
- ・ 地域の人に地域住民として認識してもらい、受容性を高める
- ・ 外国人における、地域のルール・マナー取得
- ・ 日本の文化や慣習に触れてもらい、地域に愛着を持ってもらう

2. 自治会ごとの取組

実施概要

①地区で行われる毎月の活動に積極的に参加（異文化交流）

外国人：地区活動への参加（シフト次第）

料理を作る際に異文化交流としてフィリピン料理のレシピを共有

法人：外国人材に参加の呼びかけ

地域：参加のフォロー、説明。活動のなかでの交流、会話

②地域住民によるゴミ出しフォロー（資源ごみ）

外国人：資源ゴミの日、担当のいる時間に出す

法人：自治会が決めている、曜日・時間を外国人材へ共有
（外国人材、それぞれが教えてもらえるようにする。）

地域：実際のゴミを使って、資源ゴミ担当の方より分別のルールを教える

※資源ごみ回収日：水曜日2回 7：30～

③その他

生活の中での交流

（家庭菜園のサポート、ゴミ出し、交通マナーについての声かけなど）

2. 自治会ごとの取組

モデル地区において、外国人と自治会それぞれが感じている不安感を、次のような取組を行い不安解消を図りながら、外国人と地域住民の交流（活動）を行いました。

<p>地域からみた交流に対する不安感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住んでいる外国人との接し方が分からない。（言葉の問題など） ・介護の仕事をする人材ということもあり、コロナ禍での交流の仕方をどうすればいいのか迷われる部分がある。 ・地域のルール（ゴミ出しや交通など）をどう教えればいいのか分からない。
<p>外国人からみた交流に対する不安感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの中で鹿児島弁が難しいと感じている。 ・文化の違いがあり、気を付けなければいけないと感じている。

交流に対する不安感を解消するための取組

<p>地域の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の紹介用チラシを事業者が作成され、自治会内の世帯に配布。 ・自治会と事業所が連携を取りながら、情報共有することで課題解決を図る。（コミュニケーションの取り方やゴミ出しルールなど）
<p>事業所の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要なゴミ出しや交通ルールの基本的な部分は事業所で指導するが、自治会へもサポートを依頼し、外国人を支援。 ・地域行事等は、事業所からも外国人へ伝えるよう地域と情報を共有。
<p>県・パーソルキャリア・町のサポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3者が連携し、地域と事業者間での情報共有に努めながら、積極的な交流につながるようサポートを実施。

3. まとめ (感想)

地域住民

関係者協議に参加してどうでしたか？

- ・当初は外国人が働く経緯などが分からなかったもので、施設の方から直接話が聞けたことや町（行政）の考え方などが聞いて良かった。
- ・外国人について知る機会になった。

地域での交流はどうでしたか？交流や会話で困ったことはありましたか？

- ・思ったよりも早く馴染んでくれた。自治会内の壮年会（30代～60代）メンバーなど、比較的若いメンバーを中心に打ち解けるきっかけとなった。
- ・外国人の方は、日本の四季に興味があるようであり、地域での春の花見など四季折々の行事に参加してもらって楽しんでもらいたい。
- ・日本語でのコミュニケーションがとれたので困ることはなかった。鹿児島弁はジェスチャーを交えて理解してもらった。また、地域の方が方言を教えて、方言教室のようなコミュニケーションが図られた。

自治会以外での交流や接点がありますか？

- ・野菜を作っている方が、野菜をあげたり小さな交流があるようだ。
- ・子どもが英語を教えてもらったり、休日に子ども達の遊び相手になってくれている。

交流を重ねてみて、外国人に対するイメージは変わったか？

- ・施設の方から、事前に紹介用チラシで情報をもらっていたので、大きなギャップはなかった。
- ・外国人ということで心配な部分があったが、子ども達を含めて色々な交流ができたことで、交流前の「怖い」という感情は全くなかった。

3. まとめ (感想)

<p>外国人材</p>	<p>交流を通して地域の人ともっと関わりたいと思いましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人とたくさん関わりたい。 ・ 地域の人はとてもやさしいから地域のことを好きになれた。 <p>生活の不安や心配が減りましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不安や心配はとても減りました。
<p>事業者</p>	<p>関係者協議に参加してどうでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の不安な声や考えを聞くことができた。 ・ 事業者側の希望を地域住民に伝えられた。
<p>町 (行政)</p>	<p>取組の良かった点や課題等は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や受入れ事業者が一緒になって関係性を築こうとする雰囲気醸成でき、外国人や地域住民の安心感にもつながった。こうした取組を町内の他の自治会にも紹介し、地域に根付いた交流を図っていきたい。 ・ 事業者の関わりが見込めない場合など、交流につなげる手段等に課題が残る。 ・ 外国人にも住みやすい町づくりを進める上でも、事業者等への理解促進につながる取組の検討が必要である。

今回のモデル事業では、事業開始において自治会・事業所・鹿児島県・パーソルキャリア(株)・町の5者による顔合わせを行ったことで、お互いの距離感が縮まり連携を深められた点だと考えます。こうした基礎をつくるのが、地域内での話し合いもスムーズに実施でき、コロナ禍においても地域で自主的な活動につながったものと考えます。